

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	72	89	百日咳	2	0
RSウイルス感染症	3	5	ヘルパンギーナ	48	23
咽頭結膜熱	16	14	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	81	70
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	64	70	急性出血性結膜炎	0	0
感染性胃腸炎	270	335	流行性角結膜炎 (はやり目)	1	14
水痘	117	114	細菌性髄膜炎	0	0
手足口病	72	50	無菌性髄膜炎	0	0
伝染性紅斑 (りんご病)	16	12	マイコプラズマ肺炎	4	1
突発性発しん	53	51	クラミジア肺炎	0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 水痘
- 流行性耳下腺炎

- 感染性胃腸炎は、報告数 270件(前週報告数 335件)と減少。地区別では、菊池、山鹿、人吉、宇城に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の42件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 水痘は、報告数 117件(前週報告数 114件)とわずかに増加。地区別では、人吉、菊池、有明に報告が多くみられる。年齢別では、1歳の28件を最多に、15～19歳以下からの報告である。
- 流行性耳下腺炎は、報告数 81件(前週報告数 70件)と増加。地区別では、山鹿、宇城、菊池に多く報告がみられる。年齢別では、5歳の18件を最多に、15～19歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	9	1	9	23	85	36	36	5	17		8	15						3
山鹿保健所	3			2	17	3		2	3			14	*	*				
菊池保健所	4		2	11	46	15	13	1	13		1	11						
阿蘇保健所				1	2								*	*				
御船保健所					5	1							*	*				
八代保健所		2		14	28	7	10		5		3							
水俣保健所	9		1			2					23	5	*	*				
人吉保健所	1			2	23	24	1	2	7		2	7	*	*				
有明保健所				3	19	17	6	3	4			10		1				1
宇城保健所	5		2	5	23	9	1	2	2	2	1	13						
天草保健所	41		2	3	22	3	5	1	2		10	6						
計	72	3	16	64	270	117	72	16	53	2	48	81	0	1	0	0	4	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	72						4	4	5	6	5	3	11	22	2	3	4	3				
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	3	1	1	1																		
咽頭結膜熱	16		2	4	2	3	1		2	1			1									
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	64			4	4	9	13	11	8	6	3	1	4		1							
感染性胃腸炎	270	2	24	42	24	33	30	18	23	10	3	9	26	2	24							
水痘	117	6	11	28	23	21	13	5	6	1		1	1	1								
手足口病	72	2	10	21	16	11	6	1	3	1					1							
伝染性紅斑	16			1	1	2	2	2	1	3	1	2	1									
突発性発しん	53		23	26	2	2																
百日咳	2														2							
ヘルパンギーナ	48	1	7	12	15	3	4	5						1								
流行性耳下腺炎	81		1	7	6	11	17	18	7	4	3	3	3	1								
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	1														1							
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	4		1							2		1										
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

- 水痘：人吉
- ヘルパンギーナ：水俣
- 流行性耳下腺炎：山鹿

- ◆ 手足口病
- ◆ ヘルパンギーナ



手足口病、ヘルパンギーナとも、今週はこれまでに比べ、より報告数が増加しています。毎年夏を中心に発生がみられますので、今後注意が必要です。両疾患とも、幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症で、手足口病は、口の中や手、足などに水疱性の発疹が見られる疾患です。ヘルパンギーナは、発熱とのどにあらわれる水疱性発疹が特徴で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。両疾患ともに、まれに髄膜炎や脳炎を起こすことがあります。特に、ぐったりしている、強い頭痛・嘔吐を伴う、発熱が2日以上続く、などが見られた場合は医療機関を受診するようにして下さい。保育園等小児の施設では、特に注意が必要です。患者の便や咳、くしゃみから感染しますので、予防法としては、排便処理後、食事前、調理前の手洗いやうがいなどが有効です。

